

## 六甲山開発の歴史と 「野仏の佇む シュラインロードを巡る」

日時 : 令和元年6月5日(水)

コース : 歩行距離 約8.5km

JR六甲道 出発 ⇒ (市バス) = 六甲ケーブル下駅 = (ケーブルカー) = 山頂駅 (巻上機見学)  
⇒ 天覧台 ⇒ 記念碑台 (昼食) ⇒ 前が辻 ⇒ 白髭神社 ⇒ アイスロード・シュラインロード  
⇒ 九体仏 ⇒ 四鬼邸 (役行者の子孫) ⇒ 東谷西国 33所観音石仏 ⇒ 神鉄六甲駅 解散

梅雨入り前の好天気の下で“グループわ”北区会員他16名が参加して、親睦ウォーキングを実施した。

JR六甲道 出発 ⇒ (市バス) = 六甲ケーブル下駅 = (ケーブルカー) = 山頂駅 (巻上機見学)



JR六甲道 9時30分 集合



出発前 芦田北区会会長の挨拶



木田さんから本日のコース説明



六甲ケーブル山頂駅



巻上機 (昭和7年開業) 見学



駅地下に設置された巻上機

六甲ケーブル山頂駅 ⇒ 天覧台 ⇒ (神戸ゴルフ倶楽部) ⇒ (六甲山小学校) ⇒ 記念碑台



山頂駅から天覧台に向かう



天覧台に到着



神戸ゴルフ倶楽部に向かって進む



神戸ゴルフ倶楽部を通過



六甲山小学校に到着



同小学校の門前



記念碑台 (六甲山ビジターセンター)



昼食の様子



昼食の様子



記念碑台で記念写真

記念碑台 ⇒ 白鬚神社 ⇒ アイスロード・シュラインロード



記念碑台から白鬚神社に向かう



白鬚神社に到着



白鬚稲荷大善神にお参り

白鬚神社は、明治元年神戸港開港と共に来日し、六甲山の開発に貢献し六甲の開祖と言われるA・H・グループが山上の別荘で可愛がっていた狐の霊が祭られており、その狐の尾が白かったことから白鬚神社と呼ばれている。

六甲山の開発は昭和2年阪神電車が別荘地として売り出したことに始まるが、それに対抗して昭和4年に阪急電車が六甲山ホテルを開業し、水害と戦争激化で廃線となったが、六甲ホテル下から新六甲大橋付近まで通っていた六甲登山ロープウェイの跡が今も残っている。六甲山上で阪神・阪急の開発競争が始まった。

昭和4年開業の六甲山ホテル



昭和6年開通の六甲登山ロープウェイ (絵葉書より)



山上駅に架かっていた月見橋跡



今も残る橋脚の跡

シュラインロードは明治の初め、この地をハイキングした神戸市外国人居留地の外国人たちは、山道に、行者堂や石祠（Shrine）のあることから、シュラインロードと名付けられた。

古くは唐櫃越、または、唐櫃道と呼ばれ、北摂方面から酒米、三木の刃物や農産物を、灘方面からは、海産物などが運搬され、神戸の海岸地方と内陸部を結ぶ、経済の動脈でした。野盗や辻斬り、事故の犠牲になった人への供養と道中の安全と商売繁盛を願って、33体の観音石仏と番外4体の石仏が祀られている。

昭和37年ごろ裏六甲ドライブウェイの工事で9体の石仏を一ヶ所に集めた「九体仏」を見、シュラインロードに祀られた「西国三十三所観音石仏」を一つひとつ数えながら、また、六甲山開発の歴史と、携わった先人たちに思いを馳せながら、山上の前ヶ辻から全員のんびりと下った。



24番 観音石仏



14番 如意輪観音石仏



観音石仏 九体仏



シュラインロードの石仏を一つひとつ数えながらウォーキングするメンバー



「役の行者を」を祀る行者堂



九体仏前で記念写真

シュラインロードをウォーキングした後は、上唐櫃 東谷に佇む観音石仏巡り、神鉄六甲駅で16時頃解散した。

（報告書編集 D gr. 山口 俊雄）